

既存の幼稚園・保育所を多古こども園に一元化 保護者とともに子どもたちの「生きる力」を育む

千葉県北部、北総大地の東側に位置する多古町。町の中央部を流れる栗山川流域の水田地帯で獲れる「多古米」は、食味日本一にも輝いたブランド米として知られ、大和芋は全国有数の生産量を誇る。あじさい祭りや江戸時代から続く多古祇園祭など、歴史的・文化的資源にも恵まれる一方、成田国際空港のお膝元として都市基盤整備も急激に進みつつある。その多古町で平成26年4月に開園した多古こども園は、細部まで子どもの立場に立って設計された素晴らしい施設と、子どもの主体性を尊重した保育・教育が評判だ。強固なリーダーシップで幼保一元化を推進してきた菅澤英毅町長に話を聞いた。



千葉県多古町長
菅澤 英毅
(すがさわ ひでき)

昭和19年9月20日生まれ。昭和42年3月、東京農業大学卒業。同年4月、成田市役所勤務（～平成11年3月）。平成元年4月、多古町立多古中学校PTA会長（～平成4年3月）。平成7年4月、千葉県立佐原高等学校PTA会長（～平成8年3月）。平成11年4月、多古町議会議員（～平成18年3月）。平成18年4月27日より多古町長。現在3期目。平成18年5月より有限会社ティ・ティ・エス副社長。平成27年5月より同社社長。

空港周辺市町村の共存共栄へ 都市基盤の格差解消が不可欠

——町長に就任される前のご経歴は？

〈菅澤〉 大学を出て、ちょうど成田空港問題が持ち上がっていたころの成田市役所に奉職し、32年間勤めました。平成11年末に定年まで7年を残して退職し、地元の多古町で町議会議員を2期務めた後、平成18年4月に町長選挙に出馬し、現在3期目です。私は生まれも育ちも多古町で農家を継ぐべき立場ながら地方公務員を目指し、近隣の成田市役所に勤め、家から通っていました。生まれてから一度も地元を離れたことがないのです。

——多古町はどう変わってきたと思われませんか。

〈菅澤〉 多古町は昭和29年に、旧多古町・久賀村・中村・常磐村の4町村が合併して誕生しました。その頃から比べると、さまざまな施設が整備されて便利になり、賑やかにもなった一方で、空港に働き場ができたこともあって若者の流出が続き、人口は合併当初から比べると7,000人以上減りました。ですから、人口減少対策、少子高齢化対策が大きな課題です。

それと、町としては千葉県内2番目に面積が広かつ

たこともあり、道路網の整備が遅れていました。戦前は成田鉄道多古線が運行していましたが、戦争末期にレールや車両の供出で休止となり、戦後に廃止されました。それを補完するため、当時の国鉄バス、今のJRバスが走るようになりました。それでも、周辺市町村に比べて公共交通網の整備はまだ遅れています。

成田空港をめぐるいろいろな不幸なことが重なり、長年にわたって建設反対闘争が続きました。そのため、完成しても残念ながら空の拠点とはなっても陸の拠点にはならず、周辺市町村の基盤整備における格差が残ったままです。私は町長就任以来、一貫してその是正に力を注いできました。

多古台約30町歩のエリアを コンパクトシティの核心に

——その具体的な対策としては、どんな施策が行われているのでしょうか。

〈菅澤〉 まず、町の活性化の拠点として、多古台約30町歩の開発を進めています。ここは民間企業が造成しましたが、その後の景気低迷で約30年間手つか

ずのままでした。私はここをコンパクトシティの中心拠点にしようと考え、団地中央に都市計画道路を通しました。そして、ここを開発するデベロッパーを募集するため2,000社に案内を送りました。しかし、多古町は交通の便が悪いといった理由からあまりいい反応はなかったのですが、ある住宅メーカーと交渉することができました。

同社自身は、まだこの一帯は開発の時期ではないという判断でしたが、子会社の不動産会社が企画立案を担うことになり、都市計画道路の南側を公共施設用地、北側を住宅用地とする開発計画が立てられました。この計画に沿って住宅建設が進んでいます。第1期が85戸、第2期が45戸、それぞれ完売したので、今は第3期の事業を進めています。

——一方、公共施設のエリアには認定こども園などがありますね。

〈菅澤〉 多古こども園は平成26年4月にオープンしました。多古町はもともと教育文化の伝統があり、それを引き継ぎたいという思いがあったのと、少子高齢化を食い止めるためには幼児教育の充実が不可欠という認識のもと、認定こども園を開設したのです。

イタリアのレッジョ・エミリア市で世界最先端の保育実践を視察

——こども園開設に際して、町長は欧州視察にも行かれていますね。

〈菅澤〉 たまたま関東町村会で、平成26年7月にイタリアとドイツへの海外行政視察が企画されたので、私も参加しました。イタリアで訪問したのはレッジョ・エミリア市という人口17万人くらいの都市で、ここで行われている幼児教育は世界的に注目されています。

同市には、公立の0～2歳児のための乳児保育所と3～5歳児のための21の幼児学校があり、日本のように保育園と幼稚園に分かれてはいません。幼児学校は年齢別にクラス分けされ、1クラス25人に対してペダゴジスタと呼ばれる2人の保育者がつきます。子どもたちの活動の中心は、4～5人の小グループによる長期のプロジェクト活動です。活動の様子は写真やビデオなどで記録され、ドキュメンテーションという手法で編集・公開されているので、親も子どもたち自身も日々学びながら成長していく過程を確かめることができます。ペダゴジスタは過度に子どもたちに干

渉せず、目の前で起こっていることを観察し記録しながら、活動がより促進されるように助言します。

また、各幼児学校に1人ずつ、アトリエスタと呼ばれる芸術教師が配置されています。アトリエスタはアトリエと呼ばれる部屋で、子どもたちの創造的活動を促す役割を担っています。アトリエスタも子どもたちの主体的な活動を手助けするのが役割で、子どもが何かに興味を持つことから始まり、それを芸術的な表現へつなげられるよう誘導していきます。こうした取り組みを通じて、豊かな人間性と自分で問題を解決する力を養います。

レッジョ・エミリア市では、市の予算の何と15.5%を幼児教育に使っており、教育予算全体では総予算の40%を占めます。創造性を重視した同市の保育実践は「レッジョ・エミリア・アプローチ」と呼ばれて、今や世界的な注目を集めています。その核心となるのは、子どもたちと保育者がじっくりとコミュニケーションを取り合いながら、個性豊かで独創的なカリキュラムを共同で作りに出していくことにあります。私はこの理念を多古こども園にもぜひ生かしたいと考え、設計段階から積極的に意見を伝えるとともに、小学校長からこども園にスカウトした岩立元夫園長にもレッジョ・エミリア・アプローチの考え方を説明しました。

幼児教育の重要性を強調し 幼保一元化に理解を求める

——従来あった3つの公立保育所と4つの公立幼稚園をすべて統合して多古こども園に一元化しましたが、このような方法をとった理由はどこにあるのでしょうか。

〈菅澤〉 前述のように近年は少子高齢化が進み、就園児も減少傾向にあります。特に幼稚園は、園児数が10人に満たないところも出てきて、社会性を養うのに必要な集団規模が確保できないという問題が起こっていました。また、園児数の減少に応じて職員数も少なくなり、勤務体制に余裕がなくなって保育・教育の質にも影響を及ぼすことが懸念されました。さらに、保育所は3園とも建築後30年以上を経過し、老朽化が進んでいました。

こうした背景から、平成22年12月に多古町幼保一元化推進計画を策定し、23年7月には教育委員会が多古町幼稚園再編計画を策定して、幼児保育・教育



多古こども園全景



こどもルームで元気に遊ぶ

の充実強化のため幼保一元化による新たな施設の整備を図ることにしました。

もちろん、地域に根ざして親しまれてきた幼稚園や保育所を閉鎖することについては、地元の方々からも「どうして」という声をいただきましたし、議会からも反対の声が上がりました。しかし私は、7歳までに人格の90%は形成されると言われるほど幼児教育は重要であることを強調し、ご理解をいただきました。おかげさまで今は、みなさんに喜んでいただいています。小学校に上がると、みんな集団生活のルールをきちんと守ることができるので先生方がびっくりされます。幼児教育の成果が上がっていると考えています。

全町で1園にしたので、バスを6台導入し、送り迎えは無料で行っています。

建設にあたっては、「このような日本の未来を担う人づくりにつながる重要な事業は、国が財源の面倒を見るべき」と文部科学省に掛け合って、県補助金として「安心こども基金」という名目で2億余円を出してもらうなどして、純粋な単独費は12億余円のうち2億円足らずで済みました。

——異なる幼稚園や保育所で働いていた先生方を1つにまとめるのも大変だったのではないですか。

〈菅澤〉やはり幼稚園と保育所では、環境も違うし先生の役割も多少異なるので、こども園への移行に際しては時間をかけて研修を行いました。まず、幼稚園教諭と保育士の両方の資格を持っていないと採用しないことにしました。そして、平成24年10月から26年3月の開園直前まで計24回、見学なども含めると30回近く、職員の研修を積み重ねました。幼稚園教諭と保育士が相互に幼稚園・保育所を1週間程度経験してもらおうといった試みも行いました。

また、一方的に「こうしてください」と押し付ける

のでなく、先生方にアンケートをとってどんなことを不安に思うか、何が課題かを聞き、課題をどう解決していくかを一緒に考えるというスタンスを貫きました。

開園後も継続的な能力向上の取り組みが不可欠なので、千葉大学と連携し、2人の教授を年何回かお招きして研修会を開いています。またこちらからも、千葉大の幼児教育研究会で事例発表したり、雑誌「保育ナビ」で千葉大の先生と対談したりといった交流も行われています。

広大な芝生の園庭で遊ぶ力や体力を身につける

——何人くらい子どもたちがいるのですか。

〈菅澤〉定員は410人で、保育部門（0～2歳児）が110人、幼稚部門（3～5歳児）が300人です。今都市部で問題となっている待機児童はゼロであります。安心して子どもをあずけることができます。今年2月現在の園児数は379人で、内訳は次のとおりです。

- ・0歳児…1クラス22人（定員20人）
- ・1歳児…2クラス40人（定員40人）
- ・2歳児…2クラス43人（定員50人）
- ・3歳児…4クラス84人（定員100人）
- ・4歳児…4クラス92人（定員100人）
- ・5歳児…4クラス98人（定員100人）

職員は、園長のほか保育教諭65人（副園長・指導保育教諭含む）、管理栄養士1人、調理員6人、看護師2人、事務職2人、用務員・補助員4人の計81人です。看護師が常駐しているこども園は、この近辺では他にないと思います。このような体制を敷くことで、子どもさんに何かあってもすぐ手当てできるし、病院



楽しい給食の時間



避難訓練

に連れて行く必要がある場合でもスムーズな対応が可能です。

——かなり充実した施設ですね。

〈菅澤〉 円形の建物を真ん中にして、園庭を囲むように教室が配置されています。この円形の建物の1階は、異年齢の子どもたちが一緒に給食を食べることができるランチルームで、ふだんは多目的に使用するオープンスペースとなっています。その2階はホールで、360度ガラス張りの開放的で明るい雰囲気です。音響効果も優れており、このホールで発表会などの行事を行っています。

園庭は広く、芝生のエリアも大きいので、子どもたちが安心して駆け回ることができます。そのことで、遊ぶ力、体力、子ども同士のコミュニケーションが自然に培われます。

各教室も、窓の開閉時に子どもが挟んでケガをしないようストッパーが自然に下りる構造にしたり、トイレも年齢ごとにいちばん使いやすい形を工夫したり、細部まで使う側の立場で設計しています。

さまざまな催しを通じて子育てを支援する「こどもルーム」

——カリキュラムや運営面での特徴はどんなことでしょうか。

〈菅澤〉 できるだけ保護者の方が参加できる機会を設け、一緒に運営していくという姿勢で臨んでいることです。運動会には1,000人以上が集まるし、発表会は3歳児・4歳児・5歳児と分けて2階ホールで開催していますが、こちらもホールが満員になるくらい両親や祖父母が来られます。

3歳以上の子どもは、幼児教育を希望する1号認

定と保育を希望する2号認定に分けられます。1号認定の子は午後3時に、2号認定の子より早く退園しますが、それまでは同じクラスで過ごします。3・4・5歳児のクラスはそれぞれ4クラスありますが、3時以降は2クラスずつにまとめられます。そこから順次帰る子が出てくるので、半分くらいになったら1クラスにまとめて、さらに少なくなったら4歳児クラスと5歳児クラスを一緒にする、というふうにしています。

なお保育時間については、国は短時間（午後4時30分まで）と標準時間（午後7時まで）しか設けていませんが、私どもでは保護者にアンケートをとり、そのニーズに沿って中間時間（午後6時まで）を設けました。始まってみると、やはり中間時間の利用が圧倒的に多いですね。

給食については、調理室があるのももちろん自園給食なんですけど、4・5歳児については敢えて小学校と同じ給食をセンターから取り寄せています。スムーズに小学校生活へ移行できるための配慮の1つです。ただ、アレルギーを持っている子どもや若干障害があって刻み給食しか食べられない子どもについては、4歳以降も自園で対応しています。

——認定こども園には子育て支援機能も求められていますね。

〈菅澤〉 こども園の入園基準を満たさない保護者の育児支援機能を担うのが、「こどもルーム」です。町内に住む就学前の乳幼児およびその保護者が対象で、休園日以外の午前9時から午後4時まで、無料で利用することができます。昨年度は延べ3,300人近くの利用者がありました。お子さんがいなくても、妊婦さんでもオーケーです。先輩がたくさんいるので相談相手にもなるでしょうから。

こどもルームでは、毎日のようにさまざまな催しを



運動会



「日本の米作り100選」に選ばれた多古米

開いています。例えば月3回、火曜日には助産師さんにおいていただき、ベビーマッサージの講習会をしたり相談を受けたりしています。年に3~4回は多古中央病院の副院長さんに来ていただいて、感染症、発熱、ケガなどの話をしてもらったり、日頃からお母さんが悩んでいることについて聞いたりしています。そのほか、救急救命士による救急講習、お話し会、産後の親子ダンス、自園給食による給食体験などです。

若者世代夫婦の移住に対して 手厚く住宅取得奨励金を交付

——多古こども園ができたことで、多古町で子育てをしたいという人も増えてくるのではないのでしょうか。

〈菅澤〉 そういう若者夫婦が移住してくれるように、住宅取得奨励金についても子育て世代については特に手厚く交付するようにしています。太陽光発電システムや合併浄化槽の設置などに伴うものも含めると、1世帯あたり最大120万円ほどの奨励金になる仕組みです。

先ほどお話しした多古台の住宅エリアは、二世帯になっても長く住んでもらえるよう最低100坪を1区画としています。

——多古町は農業も盛んですね。

〈菅澤〉 多古という町名は、古くは多湖と書きました。もとは海だったところが隆起して、湿地帯となりたくさんの湖があったということを示しています。そこが穀倉地帯になっていったので、ミネラル分の多い肥沃な土壌に恵まれているのです。この土壌が、甘くておいしい多古米を育ててくれます。

多古米は平成2年に「日本の米作り100選」に選ば

れ、「第16回米・食味分析コンクール国際大会」の早場米部門において金賞を受賞するなど、味には定評があります。これをもっと売り出そうと、地元FM局「bayfm」とタイアップして、DJが米作りを体験する様子を番組の中で伝えるといった試みもしてきました。そのPR効果は意外に大きく、今では千葉県の米としてはトップブランドになっています。

もう1つ、多古町の代表的農産物となっているのが大和芋です。もともとは群馬県から栽培技術を学んで導入しましたが、今では日本有数の生産量を誇ります。出荷金額でみると、多古米を上回るほどまで伸びています。

多古町には、明治時代に日本で2番目に農業基盤整備が行われた地域があります。その際に支給された報奨金を、無駄にしないで人づくりに使おうということで、明治40年に多古町立多古農学校を設立しました。それが現在の県立多古高校です。

今後は、栗山川の上流部について新たな農業基盤整備を行い、農地の集積を図って新たな農業者を育てていくことが農業の課題だと捉えています。

千葉氏にゆかりの自治体が集って 第1回千葉氏サミットを開催

——多古町は歴史的資源にも恵まれていますね。

〈菅澤〉 千葉県・千葉市という名前の元になった千葉氏は、平安時代末期から戦国時代にかけて房総半島北部一帯を支配していた名家です。源頼朝が幕府を立ち上げるとき、現在の多古町に位置していた千田荘から最初に兵を引き連れて鎌倉に入ったのです。千田荘には千葉氏の精鋭部隊と言える兵士が多かったです。また、千葉宗家終焉の地も千田荘です。



日蓮上人ゆかりの日本寺



多古台全景

領内では、室町時代から農民に対する教育も行われていました。その伝統を引き継いで、江戸時代も寺子屋で朱子学などを子どもたちに教えていました。多古町には教育文化の伝統があると先ほど申し上げたのは、そういう意味です。多古こども園も、その系譜に連なるものだと捉えています。

空港闘争で有名になった三里塚は、もともと千葉氏が領内に設けた放牧地があった場所で、江戸時代には幕府が佐倉牧と呼ばれる軍馬や農耕馬の放牧場となっていました。これが明治時代になって、宮内省下総御料牧場となりました。御料牧場は現在は栃木県にありますが、これは空港建設に伴って昭和44年に下総御料牧場を移転したものです。

ちなみに、三里塚という地名は、多古町にある正しょう東山日本寺とうざんにちほんじという日蓮宗のお寺を起点として、街道沿いに三里の位置につくられた目印から来ています。日本寺には中村檀林という学僧の学びの場があり、全国から僧侶が集まっていたのです。

昨年8月には、千葉氏にゆかりのある全国の自治体の首長が千葉市に集まって、第1回千葉氏サミットを開催しました。その1つ、佐賀県小城市は、蒙古襲来のときに千葉氏が派兵した場所で、今もその末裔が住んでおり、中世の面影を残す城郭・館跡や寺社も現存しています。小城市長とは、これからどんどん交流していこうと話しています。

先日職員を集めて、こうした多古町の歴史を学ぶ勉強会を催しました。町民の方でも郷土の歴史を知らない方が増えていると思いますが、歴史を知ることによって郷土への誇りも生まれますし、過去を踏まえないと未来の繁栄もないと考えています。

こども園のすぐ向こうに、千葉氏の居城だった城跡があり、空堀の跡も残っています。いずれは空堀を復

元して、この一帯を城址公園として整備したいというのが私の夢です。特に施設などはなくても、子どもたちが自由に遊んだり歌を歌ったりできる場所になればいいなと思います。

道路網の整備とセットで雇用の場の確保が不可欠

——成田国際空港では第3滑走路建設に向けて動き出しましたね。

〈菅澤〉 昨年9月に、国、成田国際空港会社(NAA)、千葉県と多古町を含む周辺市町による4者会議が開かれ、第3滑走路の増設、B滑走路の延伸、飛行制限時間の緩和という方針が示されました。私どもとしてはこの計画に伴って、圏央道をはじめとする道路網の整備、スマートインターチェンジの建設、北総大地の農産物の集散基地となる物流拠点の整備や企業誘致などを目指し、国・NAA・県に要望を行っています。

交通の便が良くなるのはいいのですが、そうすると若者がより都会の方へ出て行ってしまうという傾向があるので、道路整備とセットで企業誘致などによる雇用の場の確保が大切です。空港関連施設で働く場所はたくさんありますが、今はそれぞれの会社が独自に採用しているので、公社なり協議会のような組織をつくって町が仕事を斡旋できるような仕組みが必要だと感じています。

また、第3滑走路の建設や騒音による移転の必要な世帯が200戸ほどになります。この方たちにはぜひ町内で集団移転していただかないといけないので、その移転用地確保も喫緊の課題です。

——本日はありがとうございました。